

病原レンサ球菌に対する データ駆動型の病態解明

演者：山口 雅也 先生

大阪大学 大学院歯学研究科 バイオインフォマティクス研究ユニット

2022年12月20日（火） 4:00PM-5:00PM

ハイブリッド開催

テレカンファレンスルーム（臨床研究棟 2F）

オンライン（Zoom）

※会場の座席数には限りがあり、先着順となります。

対象：教育職員、医学系大学院生、研究者等

事前参加登録

申込締切 12月19日（月） 12:00

<https://forms.gle/EJAsxFFUb7AKsh9n6>



現在、耐性菌による感染症が世界的に増加しており、新たな抗菌薬の開発とともに、ワクチン抗原の新規探索法の確立や革新的な治療法の研究が世界的に求められている。薬剤耐性化が世界的に懸念されている菌の一つが肺炎球菌である。肺炎球菌は肺炎の主たる原因菌であり、高齢の重症肺炎患者の約半数から分離される。社会の高齢化が進むにつれて、肺炎球菌による感染者数は今後さらに増加することが予測される。また、肺炎球菌と同じレンサ球菌属の化膿レンサ球菌は、致死率の高い劇症型感染症を引き起こすために大きな問題となっている。肺炎球菌や化膿レンサ球菌は、致命的な感染症の原因菌である一方で、一部の健常人では常在菌として分離されることが知られている。

我々は、これらの細菌のゲノム情報をもとに分子進化解析やゲノムワイド関連解析などを実施することで病原因子の候補を探索した。さらに、得られた候補分子について分子生物学的解析により機能解析を行った。本セミナーでは、病原細菌に対するデータ駆動型の研究アプローチについて紹介したい。

世話人 三室仁美（グローバル感染症研究センター教授）

セミナー問合せ先

大分大学グローバル感染症研究センター総務係

TEL 097 (586) 5409 E-mail glocal@oita-u.ac.jp

The seminar will be held in Japanese.